

祝宇谷・大原第2農免農道竣工



さらなるアクセス改善と農作物輸送の活用に

宇谷・大原第2農免農道開通

年度から工事に着手し、宇谷・大原農免農道と県道安来木次線を結ぶ幹線で、延長1,355m、幅員5m、事業費約12億2千万円をかけて完成しました。

竣工式に先がけ、農道推進委員会の坂本寿章委員長をはじめ地元・工事関係者などが記念碑を除幕。続いて行われた開通式では、参加者およそ100人が見守る中、テープカットとくす玉開きで完成を祝いました。

この農道の完成により、寺領・宇谷地域間のアクセス改善や、農山村地域の農作物輸送の活用につながると期待されています。



記念碑の前であいさつする坂本委員長



木次町寺領・宇谷地内の農道がこのほど完成し、5月18日に開通式が行われました。

宇谷・大原第2農免農道は、平成5

6月3日、木次町下熊谷の斐伊川河川敷を会場に、台風、集中豪雨による河川の増水を想定した斐伊川水防演習が実施されました。

演習には、国土交通省、県、斐伊川流域の水防団員などからあわせて350名が参加。水防団も兼ねる雲南市消



豪雨災害への備え万全に

平成18年度 斐伊川水防演習

出水期を迎え、参加した水防関係団体は、水防技術の習得・研鑽により水防体制に万全を期すとともに、水害防止に対する認識を深めました。

また、今回演習の行われた斐伊川左岸河川敷は、現在国土交通省による環境護岸整備が進められており、完成後多目的な河川敷公園として整備予定となっています。



防団は、加茂・木次・三刀屋の各方面隊が出動し、各水防班は、竹流し工、積土のう工、月の輪工など河川増水時に活用される水防工法を実践し、きびきびとした動作で取り組んでいました。

ゆづき(有季)遊気、裕気、優気、勇氣、有機)

ゆづきの里づくりシンポジウム2006



「旬を感じ、生命を育むふるさと」ゆづきの意味
有季(季節の変化が明快で、旬を感じることができる地域)、遊気(遊び心のある地域)、裕気(心に余裕のある生活が実現できる地域)、優気(互いを思いやるやさしさに包まれた地域)、勇氣(新しい価値観を受け入れる勇氣をもった地域)、有機(各市町と雲南全体の有機的關係、体に安全な有機農業)

5月19日、チエリヴァホールを会場に、「活力と魅力あふれる雲南地域をめざして」をテーマに、ゆづきの里づくりシンポジウムが開かれました。

今年のシンポジウムでは、早稲田大学の宮口偏迪教授による基調講演に続き、「市町村合併を終えた雲南地域の明日」と題したパネルディスカッションが行われました。

宮口教授をコーディネーターに、雲南農業協同組合の高橋雅彦代表理事専務や奥出雲葡萄園食の杜の佐藤伊代子さん、緑のふるさと協力隊の山崎直子さん、速水市長らが、都会のニーズに応える地産都消の取り組み、ふるさとの資源に触れ、活用する地域づくり、旬を感じながら暮らすスローライフへの提案などについて発表しました。



私たちの健康は私たちの手で

島根県食生活改善推進協議会総会・研修会



690人は、会員相互の親睦を図るとともに食生活の向上・改善普及に向けて研修をしました。

雲南市食生活改善推進員協議会では、今後も支部会員相互の親睦を図りつつ、積極的に食育活動や生活習慣病予防などの活動を展開し、健康づくりの推進を図ります。

6月1日、県内の食生活改善推進員のみなさんが一堂に会し、第28回島根県食生活改善推進協議会総会と研修会が、ラメールでにぎやかに開催されました。

総会では、島根県食生活改善推進協議会の光永栄子会長のあいさつに続き、平成17年度の事業・収支決算報告や平成18年度の事業計画・収支予算が承認され、活動スローガンが「私たちの健康は私たちの手で」に決まりました。続いて、雲南保健所の助言を交えた事例発表や公立雲南総合病院の服部修三副院長の「生活習慣病の食事療法について」と題した講演もあり、参加者



地元推進員による銭太鼓披露もありました。